

平成25年度 山口県 学力定着状況確認問題の結果について

下松市教育委員会

1 結果の公表にあたって

平成25年度「山口県 学力定着状況確認問題」（小学校は平成25年10月30日、中学校は平成25年10月31日に実施）の結果についてお知らせします。

本問題は、小学校3～6年生と中学校1～2年生を対象とし、国語、算数・数学（小学校5年生は社会・理科、中学校2年生は社会・理科・英語も実施）の学力の状況や児童生徒の生活習慣、学習環境等の状況を調査し、県内すべての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図ることを目的として実施しました。

これまでの各小中学校の取組により、本市の児童生徒の学力は着実に向上していますが、「知識・技能の確実な定着」や「活用する力の育成」、「学習意欲の向上」については、引き続き重要な課題です。本市では今後も、学校と家庭・地域が連携・協働し、一体となった取組を推進していきます。



2 教科に関する問題の結果について

(1) 全体の結果（下松市立全小・中学校）

基礎的な内容を問う問題については、おおむね成果が見られるが、記述式の問題や基礎的な内容を問う問題の一部に、依然として課題が見られる。



★ 小学校

- 3年及び5年の平均正答率が、県平均を上回っている。4年及び6年では、県平均をやや下回っている教科があるが、平成24年度の結果（3年時及び5年時）と比較し、伸びている。



★ 中学校

- 1年・2年ともに、すべての教科の平均正答率が県平均を上回っている。特に、1年の数学においては、平成24年度の小学校6年算数の結果と比べ、大きく伸びている。

[参考資料] 山口県の平均正答率（％）

	小学校 3 年		小学校 4 年		小学校 5 年			小学校 6 年		
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	社会	理科	国語	算数
県 平均正答率	57.5	66.0	61.4	55.9	54.6	61.6	64.0	64.9	56.6	57.2

	中学校 1 年		中学校 2 年				
	国語	数学	国語	数学	社会	理科	英語
県 平均正答率	54.1	55.9	47.6	62.9	53.5	48.7	63.9

(2) 各学年ごとの結果

◎：相当数の児童生徒ができている点 ▲：課題のある点

小学校 3 年

- ◎ 国語…必要な情報を整理して話すこと。
- ◎ 算数…表とグラフを関連づけて読むこと。
- ▲ 国語…国語辞典の正しい使い方を理解すること。
- ▲ 算数…3要素2段階の問題をまとめて考えること。



小学校 4 年

- ◎ 国語…必要な情報を整理して話すこと。
- ◎ 算数…繰り上がりのある加法の計算をすること。
- ▲ 国語…自分の考えがよく伝わるよう新聞のレイアウトを構成すること。
- ▲ 算数…万単位の乗法の計算をすること。



小学校 5年

- ◎ 国語…リード文の要旨をとらえること。
- ◎ 算数…同分母分数の減法の計算をすること。
- ◎ 社会…日常生活と密着した道具の移り変わりについて理解すること。
- ◎ 理科…南の空のオリオン座の動きを、記録カードに適切に表すこと。
- ▲ 国語…文脈に応じた文章を書くこと。
- ▲ 算数…乗法や除法が用いられる場合を式に表し、問題解決すること。
- ▲ 社会…人口の多い市の位置と県内の交通網の様子から県の特徴をとらえること。
- ▲ 理科…てんびんを使った実験について、実験の結果から分かることを的確に表現すること。



小学校 6年

- ◎ 国語…書かれている内容の要旨をつかむこと。
- ◎ 算数…分数の加法の計算をすること。
- ▲ 国語…新聞記事の要旨をつかむこと。
- ▲ 算数…分数の乗法、減法の混在した文章題を解くこと。



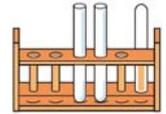
中学校 1年

- ◎ 国語…文を構成する語彙について理解すること。
- ◎ 数学…加減乗除を含む正の数と負の数の計算で、きまりにしたがい計算すること。
- ▲ 国語…人物の心情について、根拠を明確にして書くこと。
- ▲ 数学…基準となる数との違いを正負の数で表し、その考えを使い課題解決方法を説明すること。



中学校 2年

- ◎ 国語…文脈に即して漢字を正しく書くこと、読むこと。
- ◎ 数学…加減乗除を含む正負の数の計算で、計算のきまりにしたがい計算すること。
- ◎ 社会…世界の州区分を大陸との関係において理解すること。
- ◎ 理科…顕微鏡の基本的な使い方について理解すること。
- ◎ 英語…英語での問いかけに応答すること。
- ▲ 国語…人物の描写に着目して心情をとらえること。
- ▲ 数学…事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。
- ▲ 社会…出荷額上位5県(山口県を含む)から、工業の種類を推測すること。
- ▲ 理科…実験データをグラフ化し、整理すること。
- ▲ 英語…対話文を読み、内容が伝わるように下線部に適切な語を正しく書くこと。



3 生活習慣や学習環境等に関する結果について

(1) 質問紙調査結果から見られる特徴

- ◎ 普通の授業で、「話し合う活動をよく行っている」、「自分の考えを発表する機会が与えられている」と感じている児童生徒の割合が多い。
- ▲ 学習意欲や学習習慣に関する質問項目において、学年が進むにつれて、肯定的な回答をした児童生徒の割合が減少する傾向がある。また、家庭での学習時間については、依然として課題が見られる。

(2) 教科の結果と質問紙調査の回答との関係

- ◎ すべての学年・教科において、「授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)が示されている」「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」と感じている児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向が見られる。
- ◎ 学習意欲や学習習慣の質問項目で、肯定的な回答をした児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向が見られる。
- ◎ 授業の中でわからないことがあったとき、「授業が終わってから先生にききに行く」「自分で調べる」と回答した児童生徒の正答率が他の回答より高くなっている。

4 今後の取組について



★ 学 校

- 組織的取組の強化(25年度学力向上プランの改善と26年度プランの作成、チームによる組織的・機動的取組の強化、各年度学習内容の確実な習熟等)
- 教員の授業力の向上(積極的な授業公開、校内研修・授業研究の活性化等)
- 学習内容の充実と指導方法の工夫
(伝え合う学習や活用力を高める学習の充実、一人ひとりに応じた指導の充実、全国学力調査・県確認問題及びやまぐち学習支援プログラムの一層の活用等)

★ 家庭・地域

- 学習・生活習慣の改善(「家庭学習の手引き」の活用、家庭生活の見直し等)

★ 下松市教育委員会

- 各学校の取組の検証
- 学力分析と情報提供
- 継続的な学校訪問による指導・助言
- 活用力を高める授業づくりに関する指導・助言
- ワークショップ型授業研究等による校内研修充実への指導・助言